

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービス ほっぷ7		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	古民家を利用しているため、落ち着いて活動ができ、安心して過ごすことができる。	・玄関先に、登所時に目に入るよう、『ほっぷ』ロゴの入った、明るい雰囲気が出る壁面や、子どもたちと毎月一緒に作る可愛い製作を飾っている。 ・「おかえり」と迎えるようにしている。	・事業所内の畳、襖など、傷みがある箇所の修繕を行う。
2	子供の体調面や活動の様子などを保護者様と情報共有し、相談事があればすぐに対応できるようにしている。	・連絡帳にて、利用ごとに、活動の様子等を具体的に記入して共有。保護者様から、ご自宅での様子等も記入いただき、共に成長を喜び合え、良いやり取りになっている。 ・LINEの利用をすることで、気軽にお困りごと等お話しできる。	・現在は、保護者様から訴えがあった際にお話しを伺っているが、今後は、「相談会」や「保護者交流会」など、定期開催を検討。
3	少人数制のため、小集団での集団活動の際にも、子ども一人ひとりに、支援員が付き、個々に必要な寄り添った支援が提供できる。	・集団での活動を行う際、「待つ」「話を聴く」「内容を理解して実行する」プロセスの中で、支援員が子ども一人ひとりに付いていることで、一人ひとりのそのときの課題に合わせた対応を行っている。段階を踏んで、支援員が常に付かなくても活動に参加できることを目指していける体制。	・子ども一人ひとりに支援員が付いての、外出支援で様々な経験ができる機会を、今以上に設けたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対する支援プログラムの機会が不足している。	・外部からの情報はsnsで発信しているのみとなっている。 ・事業所内で講演会などの開催は時間が取れず実施出来ない。	・ご家族も一緒に参加できるような企画を考えたい。 ・ご家族の要望がどのようなものかを把握する。
2	地域の園児との交流が少ない。	・平日午前中の利用時間は1時間程度、放課後利用も、短時間なことから、難しい。	・土休日など時間がある時に、交流できる場、児童センターや図書館、公園などに出かける。 ・事業所が主催者となり、近所の児童を招き交流するなど方法を模索する。
3	活動の様子を、保護者様へ直接お伝えすることが難しいパターンがある。	・通っている園へ迎えに行き、サービス提供し、園へ送り届ける利用方法の子どもの場合、保護者様と会う機会がなく、連絡帳等でのやりとりのみになってしまっている。	・モニタリングの際など、定期的に、保護者様に声掛けをし、面談の機会を設けたい。